

(8) ク 空調機薬剂投入業務仕様書

空調機薬剂投入業務仕様書（以下「仕様書」という。）は、センタービル及びドリーム・コアの、空調機の循環水の水質維持のための薬剂投入にかかる基準を示すものであり、その基準は下記のとおりである。

指定管理者は、仕様書に基づき、センタービル及びドリーム・コアの環境に悪影響を与えることのないよう、誠意をもって業務を実施し、センタービル及びドリーム・コアにおける衛生的環境の確保に努めること。

なお、仕様書にない軽微な事項については、上記の目的を達するよう自らの判断で実施すること。

1 空調機の設置場所

- ・センタービル
- ・ドリーム・コア

2 空調機の仕様

〈センタービル〉

○空調機

項 目	冷温水発生機No.1	冷温水発生機No.2	水冷スクルー専用チラー
冷房能力	350USRT	360USRT	285,500Kcal/h
暖房能力	1,000,000Kcal/h	1,163kw	—
冷水量	3,530L/min	217.7m ³ /h	952 L/min
冷水温度	12～7℃	12～7℃	11～6℃
温水量	3,340L/min	200.4m ³ /h	—
温水温度	50～55℃	50～55℃	—
冷却水量	5,840L/min	360.0m ³ /h	1,188L/min
冷却水温度	32.0～37.5℃	32.0～37.2℃	32～37℃
平均負荷	80%	80%	100%
年間運転時間	7,008時間	5,840時間	1,500時間

○冷却塔

項 目	冷温水発生機No.1	冷温水発生機No.2	水冷スクルー専用チラー
冷却能力	175USRT	963,600kcal/h	100USRT
冷却水量	2,920L/min	2,920L/min	1,188L/min
冷却水温度	32.0～37.5℃	32.0～37.5℃	32～37℃
台数	2台	2台	1台

○冷却水保有量

項 目	冷温水発生機No.1	冷温水発生機No.2	水冷スクルー専用チラー
本体	1.1トン	1.18トン	3.5トン
配管	13.9トン	13.9トン	0.6トン
冷却塔	6.8トン	6.8トン	1.0トン
合計	21.8トン	21.8トン	5.1トン

〈ドリーム・コア〉

○空調機

項 目	冷温水発生機No.1	冷温水発生機No.2
冷房能力	USRT	60
暖房能力	Kcal/h	149,360
冷水量	L/min	549.8
冷水温度	℃	12.5～7.0
温水量	L/min	549.8
温水温度	℃	55.4～60
冷却水量	L/min	1,000
冷却水温度	℃	32.0～37.5
年間運転時間	時間	2,034

○冷却塔

項 目		冷温水発生機No.1	冷温水発生機No.2
冷却能力	USRT		
冷却水量	L/min	1,000	1,000
冷却水温度	℃	32.0~37.5	32.0~37.5
台数	台	1	1

○冷却水保有量

項 目		冷温水発生機No.1	冷温水発生機No.2
本体	トン	111	111
合計	トン	111	111

3 既設薬品注入装置の仕様

〈センタービル〉

栗田工業（株）製 クリオートC505×2台、クリオートC505×1台

〈ドリーム・コア〉

イワキ（株）製 EHN-B11 VCIYT IWAKI PUMPS CT-50A×2台

4 使用する薬剤等

業務に要する薬剤等は、事前に購入準備しておくこと。

5 薬剤の投入基準

〈センタービル〉

薬剤の種類	投入数量	備 考
開放循環系冷却水用処理剤 (腐食、スケール、 スライム防止剤)	検査結果に基づき必要量 を投入 (目安：50kg/1回)	4月～6月及び10月～11月まで の間は月1回、7月～9月までは月2 回を基準とし、天候等の諸条件により 必要の都度投入するものとする。また 、投入については既設薬品投入装置を 使用し、連続投入する。

〈ドリーム・コア〉

薬剤の種類	投入数量	備 考
開放循環系冷却水用処理剤 (腐食、スケール、 スライム防止剤)	検査結果に基づき必要量 を投入 (目安：200ml/1日)	5月～10月までの間は毎日1回を 基準とし、天候等の諸条件により必要 の都度投入するものとする。また、投 入については既設薬品投入装置を使 用し、連続投入する。

6 その他

(1) レジオネラ属菌

- ・センタービルは、5の薬剤の他に年12回、冷却水系用スライムコントロール剤（抗レジオネラ用空調水処理剤協会登録品）を投入すること。
- ・センタービルは、原則年12回、レジオネラ属菌類に関する水質試験を行い、必要に応じて循環水の環境保全対策を行うこと。
- ・ドリーム・コアは、薬剤投入期間最低月1回、レジオネラ属菌類に関する水質試験を行い、必要に応じて循環水の環境保全対策を行うこと。

(2) 使用処理剤

- ・冷却水用処理剤の使用に先立ち、商品安全データシート及び使用方法に関する資料を確認し、熟知しておくこと。

(3) 冷却水の水質基準

- ・冷却水の水質基準について、日本冷凍空調工業会規格（JRA9W1-1980）の基準値を維持すること。また、処理剤濃度は基準値を遵守し、月1回水質検査を行い基準を確認すること。